

IIBC NEWSLETTER

March 2021 Vol. 142

IIBC MESSAGE

人と企業の
国際化に貢献する
IIBCの
これからの役割

p2 一般財団法人
国際ビジネスコミュニケーション協会
理事長 大橋 圭造



高橋 敏之氏

英語がもたらした 私のターニングポイント

p8 サッカー選手 川島 永嗣さん



©BRIDGEs



高橋 敏之氏

特集 整備が進む 英語学習・テストの オンライン環境

p3 株式会社ジャパンタイムズ出版
「The Japan Times Alpha」編集長
高橋 敏之氏

p5 NECマネジメントパートナー株式会社
大野 裕美氏

p6 法政大学
一ノ瀬 美登里氏
前 圭子氏

English Frontline
日本にいながら
留学体験ができる
ホテル滞在型の
プランを提供 p10



大野 裕美氏



前 圭子氏



一ノ瀬 美登里氏



IIBC

2021年3月発行

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

人と企業の国際化に貢献するIIBCのこれからの役割



一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 理事長
大橋 圭造

2020年7月より、IIBCの理事長を務めている大橋圭造です。それ以前は、民間の金融機関に39年間、政府系の金融機関に3年強勤めておりました。うち19年間はニューヨーク、ロンドン、香港といった国際金融都市で勤務し、そのほかにもビジネスで訪れた国は40カ国をこえます。

世界各国でビジネスに取り組む中、コミュニケーションのツールとして用いたのは、一部を除き全て英語。英語によるコミュニケーション能力は、ビジネスを行う上で必須のスキルであることを実感してきました。私も若い頃は、英語でのコミュニケーション能力の習得にかなり苦労しました。20代のとき、社内留学制度を活用して、アメリカのロースクールに2年間ほど留学したのですが、毎日英語漬けになって過ごした日々のことを、今でも鮮明に覚えています。

ただ、英語を用いたコミュニケーションの難しさを本当の意味で実感したのは、国際業務部門の役員として経営に携わるようになってからです。世界中の拠点で働く現地スタッフとの意思疎通が不可欠でしたが、国・地域が変われば、社会風土や組織文化もそれぞれ異なります。そのような環境においては、例えば同じメッセージを伝える場合でも、直接的な物言いと間接的な表現のどちらにするかなど、状況によって伝え方を変えなければなりません。相手の社会的・文化的背景を理解した上で、微妙にニュアンスが異なる表現を、相手に合わせて適切に使い分けられることができる、高度な英語でのコミュニケーション能力が必要になるのです。

今後、国際社会で活躍する多くの日本人ビジネスパーソンに、こうした能力が一層求められるようになると思います。日本企業が海外で成功を収めていくためには、各々のマーケットを良く知る現地スタッフに権限を委譲し、経営のローカリゼーションを進めていくことが不可欠です。また、世界的な人権意

識の向上や自然災害の多発に対して、現地スタッフと一緒に人権デューデリジェンスやBCP(事業継続計画)対策を練っていく必要性も高まっています。いずれにしても求められるのは、現地スタッフと英語で行う、より細やかなコミュニケーションです。

私はここにIIBCの役割があると考えています。IIBCではTOEIC® Programの提供のみならず、国際的な舞台で活躍している様々な方をお招きして、グローバル人材に求められる資質や、異文化コミュニケーションのあり方などについて語っていただく、セミナーやイベントなどを実施しています。世界に羽ばたこうとされている方々に対して、少しでも力になることができれば幸いです。

国内外は依然として、新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされています。オンラインですぐに世界とつながることができる社会では、英語を用いた非対面での交渉や発信などにおいて、これまで以上のコミュニケーション能力が求められます。このような状況において、英語学習に取り組める環境を維持し続けることも、私たちの重要な任務です。例えばコロナ禍において在宅勤務が広がる中、「IPテストを自宅で受験したい」というニーズが増えてきました。IIBCでは2020年4月より、IPテスト(オンライン)を実施しています。また在宅での学習ニーズも増えていることから、公式教材や公式eラーニングの提案にも注力しています。一方、公開テストにおいては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しながら、スムーズな運営ができるように努めております。

今後とも、英語によるコミュニケーション能力の向上と、グローバル人材の育成を通じて、人と企業の国際化に貢献してまいります。

変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

整備が進む 英語学習・テストのオンライン環境

新型コロナウイルス感染症対策などを背景に、大学などがオンライン授業を導入し、企業・団体が在宅勤務やオンライン会議などを推進する中、英語学習・テストに関してもオンライン化が進んでいます。また、英語でのオンライン会議などでは、よりの確に表現して伝えなければならないなど、これまでより一歩進んだ英語学習が必要になってきます。本特集では、オンラインを活用した英語学習法を「The Japan Times Alpha」編集長の高橋敏之氏に伺うとともに、TOEIC® L&R IPテスト（オンライン）を活用されている、NECマネジメントパートナー株式会社と法政大学のお取り組みを紹介します。

自分の半径1m以内をアメリカにして 海外で生活しているような環境をつくる

——株式会社ジャパントイムズ出版「The Japan Times Alpha」編集長 高橋 敏之氏

□ 充実するオンラインでの学習ツール

近年、英語学習において生じた最も大きな変化の1つが、オンライン学習ツールの充実です。オンラインで英会話レッスンが気軽にできるようになり、動画配信サービスには、英語学習に役立つ素材があふれています。

IIBCにおいても、2019年4月より、本番のテストと同じプロセスで作成された約1,500問の問題と、本番と同じリスニング音声とが搭載された、「TOEIC® Listening & Reading 公式eラーニング」のサービス提供を団体向けに開始。また、20年4月からは、受験者がインターネット上で場所を選ばず受験できる、IPテスト（オンライン）をスタートしました（次ページを参照）。

このように英語学習を取り巻くオンラインの環境が整備され、IIBCでもオンライン化に注力するさなか発生したのが、新型コロナウイルス感染症の流行でした。海外渡航が難しくなっ

ただけではなく、日常生活においても、対面でのコミュニケーションが大幅に制限されることになりました。

「もし新型コロナウイルス感染症の流行が、『今のようにオンライン環境が整っていない、10年前に起こっていたとしたら……』と考えるとぞっとします。生の英語に触れる

機会が激減し、多くの人が英語学習に対するモチベーションを失ったことでしょう」

こう語るのは、株式会社ジャパントイムズ出版が発行する、英語学習用の週刊英字新聞「The Japan Times Alpha」編集長の高橋敏之氏です。

□ 興味あるジャンルの動画を教材として活用

新型コロナウイルス感染症の拡大は、在宅勤務を導入する企業が増加するという、思わぬ社会変化も引き起こしました。急な対応に追われて大変だった反面、英語学習者としては、通勤がなくなり、就業後に同僚などと飲食する機会も減ったため、学習時間を確保しやすくなりました。

「せっかく時間が取れるのなら、これまでよりも一歩踏み込んだ探究心を持ち、英語学習に取り組んでみてはどうでしょう」と、高橋氏は提案します。

例えば、一般的に日本人は「a」と「the」の使い分けが苦手で、高橋氏もかつては苦手意識を抱いていたそうです。

「そこで英文を読むときに、aとtheが出てきた部分に全部マーカーを付けていきました。その上で英文を読み直してみると、ケースごとにaとtheのどちらを使うのが適切なかが、初めて深く理解できるようになったのです」

こうした探究心は、オンラインの動画配信サービスで、海外ドラマや映画を視聴するときにも発揮できます。高橋氏は「登場人物が発する細かい表現に注目しながら視聴してほしい」と言います。

例えば「grow」は、人や動物などが「成長する、育つ」という意味が有名です。ところが海外ドラマを視聴していたときに、登場人物が「関心が高まる」という意味で「grow」を使っている



高橋 敏之氏

ことに気が付いたとします。「そうか、growはそんなふうにも使えるのだ」と気に留めておくことで、英語表現のバリエーションが大きく違ってくるそうです。

「リスニング力に自信がない方は、日本語字幕から入れたいと思います。日本語字幕を読みながら、『日本語ではこういう訳になっているが、英語で何と言っているのだろうか?』と、気になった部分に注意を向けてみるのです。すると『日本語では難しい言葉で訳されていたけど、英語だとこんなにシンプルな表現をしている。これなら自分でも使えそうだな』というものが多くことに気付くはずですよ」

動画配信サービスを活用して英語学習をする場合の高橋氏のお勧めは、自分の興味があるジャンルを教材に用いること。今の時代、オンラインで色々なジャンルの動画を視聴することが可能なため、趣味を楽しみながら、同時に英語力を身に付けることができるのです。

「私がセミナーで皆さんによくお話ししているのは、『自分の半径1m以内をアメリカにしよう』ということです。趣味の動画を楽しむときも英語のコンテンツを選び、本も英文のものを読むようにします。日本にいながら、自分だけはアメリカで生活しているような環境をつくっていくわけです」

場所や時間を問わず受験できるオンラインテスト

英語学習を続けていると、「自分の英語力がどれだけ伸びているのか」「英語力における自分の強みや弱み」などをきちんと把握したくなるものです。そこで重要になるのがテストです。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度の公開テストについては、一定期間中止せざるを得なくなりましたが、その中でもIPテスト(オンライン)に関しては、実施し続けることができました。

「留学も海外旅行も難しくなり、その上テストも受けられな

いとなれば、何を目標にして英語学習を続けたいのか、分からなくなってしまった方も多はずです。その点、自宅で受験ができるオンラインでのテストは、学習者がテストを受けに行くのが難しい状況の中で、テストの方が学習者に近づいてきてくれたという意味で、非常に意義があると思います」と、高橋氏。

またIPテスト(オンライン)は、社員・職員・学生・生徒の受験機会を確保し、英語コミュニケーション能力の底上げを図っていきたく考えている企業・団体・学校からも高い評価を得ています。

* * *

ここまでは高橋氏に「オンラインを活用した個人の英語学習法」について語っていただきましたが、次ページから、企業・団体・学校が、IPテスト(オンライン)を実施することのメリットを、どのように考えているかについて紹介します。



TOEIC® Program IPテスト(オンライン)とは

TOEIC® Program IPテスト(オンライン)は、TOEIC® L&R、TOEIC® S&W、TOEIC Bridge® L&R、TOEIC Bridge® S&Wの4つのテストにおいて、企業・団体・学校などが、実施日時を任意に設定することができ、受験者はインターネット上で場所を選ばず受験することが可能な制度です。このうちTOEIC® L&Rのテスト時間は、従来のマークシート方式が約2時間であるのに対し、オンラインは約1時間となっています。

公開テスト、IPテスト(マークシート方式)、IPテスト(オンライン)のいずれを受験しても、スコアが同じであれば英語力も同等です。ただし公開テストの場合は、IIBCがテストを運営・管理しているのに対して、IPテスト(マークシート方式)では実施団体に管理が委ねられており、加えてIPテスト(オンライン)においては、自宅などでの受験も可能なため、試験官の管理下でない場合もあります。そのため、IPテスト(マークシート方式)とIPテスト(オンライン)では、Official Score Certificate(公式認定証)は発行されません。

なおIIBCでは、IPテスト(オンライン)において、リモート試験官サービスを提供しています。このサービスは、特性上、テスト期日を定め一斉受験する必要があります。そこで2021年3月より、AIによるテスト監視サービスを導入しました。このサービスを活用すれば、受験者が好きな時間に受験することが可能になります。

IPテスト(オンライン)の導入により 応募者の受験率97%を達成

— NEC マネジメントパートナー株式会社 人材開発サービス事業部

□ 年4回、全国約100カ所でIPテストを実施してきた

NEC マネジメントパートナー株式会社は、日本電気株式会社(以下、NEC)及び、NECグループ企業に対し、シェアードサービスや人材開発サービスを展開しています。英語教育に関しては、人材開発サービスの一環として、NECグループ各社からの求めに応じた研修や、eラーニングといったメニューを提供しています。

NECグループ全体としては、社員に一律の英語学習プログラムを提供するのではなく、社員が自分で手段を考えて英語学習を行い、企業はそれに対して金銭的なサポートを行うという形が、現在では主流になっています。



大野 裕美氏

TOEIC® Programについては、NEC本社から同社が委託を受け、これまでTOEIC® L&R IPテストを、NECグループの全社員を対象に年4回実施してきました。受験者数は1回約1,000人。試験会場も、北海道から沖縄県まで約100カ所に及ぶという大規模なものでした。

「グループ企業によって異なりますが、NEC本社の場合、年4回のうち1回は受験料を全額補助しています。受験回数は特に制限していないため、3年に1回程度受験する社員もいれば、年4回全て受験する社員もいます」と語るのは、人材開発サービス事業部の大野裕美氏です。

□ 受験率が80%から97%に大幅アップ

同社では2020年度より、年4回の実施回数を変更せず、IPテスト(オンライン)を導入しました。大野氏は「新型コロナウイルス感染症対策が理由ではありません」と語ります。

同社では、IIBCが20年4月よりIPテスト(オンライン)のサービス提供を開始することを見据え、その前年からIPテスト(オンライン)をより使い勝手の良いものにするために、IIBCの担当者と議論を重ねてきました。そして20年4月のサービス提供開始に合わせ、導入を決定したのです。

「IPテスト(オンライン)の実施に当たっては、NECの人事部門とも協議を行いました。オンラインテストの採用により、テスト運営を大きく効率化できることのみならず、受験者側にも、自分の都合の良い時間に受験できることや、テスト時間が2時間から1時間に短縮されるメリットがあることを人事部門も評価し、オンラインの導入で合意することができました」と大野氏。

実際に試験を実施してみたところ、NECグループでは普段から社員の多くがeラーニングでの学習に慣れていることもあり、戸惑いや抵抗が見られることなく、スムーズに受け入れてもらえることができたそうです。

「受験者全体の平均スコアは、マークシート方式のIPテストのときとほぼ同じでした。オンラインに移行したからといって、特にスコアにブレが生じるようなことはないことを確認できました」

一方受験率については、これまでとは大きな変化が生じ、従来は受験申込者の受験率が80%前後だったのに対し、2回目のIPテスト(オンライン)では97%に達しました。従来のマークシート方式のIPテストでは、受験日時と場所が決まっていたため、仕事の都合でスケジュール調整が難しい社員がいましたが、テスト期間内であれば、場所や時間を選ばずに受験ができるというIPテスト(オンライン)のメリットが、目に見えて現れる結果となりました。

今回は、新型コロナウイルス感染症が発生したにもかかわらず、IPテスト(オンライン)を導入していたため、在宅勤務者を含めた社員に対して、継続的な受験機会の提供と、自己学習の促進を実現することができました。これからも同社は、IPテスト(オンライン)を引き続き実施していく予定です。

「当社では、TOEIC® Programに興味のある社員に、メールマガジン(登録制)で最新情報を発信しています。そのような方たちはテストを積極的に受けてくれますが、中にはオンラインでIPテストが受けられることを、まだ知らない方もいると思います。できるだけ多くの社員にIPテスト(オンライン)を受験してもらるように、広報活動にも力を入れていきたいと考えています」



学生の受験機会を確保、 場所と時間を問わないテストで利便性も向上

——法政大学 グローバル教育センター事務部

□ 新型コロナの影響でIPテスト(オンライン)を実施

法政大学は、2014年度より文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択され、グローバルリーダーの育成に取り組んでいます。当然、学生の英語力の強化にも力を入れており、一定レベルの英語力がある学生を対象としたERP(英語強化プログラム)などの語学教育プログラムや、留学生と日本人学生が様々な形で交流する、国際交流プログラムなどを展開しています。

TOEIC® Programについては、全学の学生を募集対象にして、各キャンパス(市ヶ谷、多摩、小金井)で2カ月間全8回のTOEIC® L&R講座を有料で開講。また自身の英語力をチェックしてもらうことを目的に、TOEIC® L&R IPテスト(マークシート方式)を年1回無料で、大学院生を含めた全学の学生を募集対象にして、各キャンパスで決まった日時で一斉に実施してきました。このほか学部単位でも、クラス編制のためのプレイスメントなどの目的で、独自にIPテストを実施しています。

しかし20年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために授業自体がオンライン中心となり、学生のキャンパスへの立ち入りも制限される中、従来のように学内にテスト会場を設けて、IPテストを実施することが困難になりました。そこでIPテストの実施運営を担当するグローバル教育センターでは、学生の受験機会の逸失を防ぐため、TOEIC® L&R IPテスト(オンライン)の採用を決定。20年11月16日から12月15日までの1カ月間をテスト期間として、学生はそこから都合の良い日時を選び、好きな場所で受験することが可能になりました。

□ 受験の利便性が向上し、実施負担も軽減

当初、同大学にとってIPテスト(オンライン)は、緊急措置的な意味合いが強いものでしたが、「実際に実施してみると、メリットの方が大きかった」と、グローバル教育センター事務部グ

ローバルラーニング課主任の前圭子氏は語ります。主なメリットとしては、場所と時間を問わずに受験できるという学生にとって利便性が向上した点と、運営サイドにおいて、テストの準備や当日の運営にかかる手間が、大きく削減されたことだそうです。



「これまでは、テスト会場や運営体制の関係で、テスト日程を複数日設定できない状況でした。IPテスト(オンライン)では、これらの課題が解決され、時間・場所を選ばず受験できるようになるなど、学生にとっての利便性が向上しました」(前氏)

IPテスト(オンライン)に関する学生からの問い合わせについては、IIBCヘルプデスクが対応しました。前氏はその点も、「負担と不安が軽減され助かった」と話します。開始前には、多くの学生が直接グローバル教育センターに連絡してくるのではないかと予想されましたが、実際にはほとんど問い合わせはなく、多くの学生がスムーズに受験することができたそうです。

またグローバル教育センター事務部長の一ノ瀬美登里氏は、IPテスト(オンライン)の場合、従来のマークシート方式のIPテストと比べて、受験者に関する情報を多く入手できる点を高く評価しています。IPテスト(オンライン)ではログインした後、アンケートに答えないとテスト画面に進むことができないため、アンケートの回収率は必然的に100%になります。

「受験理由や受験回数などを、正確に把握できる点は非常に良いと感じました。どんな学生が受験しているかが分かれば、募集の際の告知の仕方や、受験をしていない学生に対する働きかけ方を考える上で参考になります」(一ノ瀬氏)

一ノ瀬氏は、新型コロナウイルス感染症の流行が収まったとしても、IPテスト(オンライン)を続けていきたいと考えているそうです。

「学生側もオンラインでのテストを抵抗なく受け入れてくれたというのも、続けていきたいと考えている大きな理由です。学生にとっては、従来のテストと異なり、試験会場にいるほかの受験生のことを気にせず、目の前の問題に集中できるという点も、IPテスト(オンライン)のいいところかもしれませんね」(一ノ瀬氏)



一ノ瀬 美登里氏

前 圭子氏



10団体が参加。仲間と英語力向上を目指す合同イベント

「English Cup 2020」の 修了式・表彰式をオンラインで開催

10団体で1,000名以上の方が参加し開催された、英語強化合同イベント「English Cup 2020」が盛況のうち
に修了しました。2020年12月にオンラインで開催された修了式・表彰式の様子と、受賞者の声をご紹介します。

ウシオ電機株式会社、AGC株式会社、東日本旅客鉄道株式会社 東京電気システム開発工事事務所、HENNGE株式会社、株式会社ポーラ（社名
50音順）といった団体が参加した本大会は、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社ナガセ、IIBCの3法人が共同開催しています。

非接触型のバーチャル大会として、2020年に実施された「English Cup 2020」。仲間と支え合いながら、4カ月間の英語力の伸長を複数団体と競い合うことで、競争意識やモチベーションを高め、ビジネスパーソンの英語コミュニケーション力を、全体的に底上げしていくことを目的に開催されました。

今回の大会では、TOEIC® L&R Test部門と、TOEIC® Speaking Test部門の2部門に分かれ、個人戦（TOEIC® Speaking Test部門は個人戦のみ）と、4～6名で組成するチーム戦を実施。

同年12月に開催された修了式・表彰式では、個人戦と

チーム戦の上位5位までが表彰され、特にTOEIC® Speaking Test部門・個人戦1位の方は40点のスコアアップを実現するなど、好成績を収められました。

修了式・表彰式の最後に、東進ビジネススクール講師の安河内哲也氏より、「今回TOEIC® L&Rを受験された方は、必ずTOEIC® Speaking Testも受験してください。その逆もまたしかりです。TOEIC® Programは、ライティングを含め4技能を測定するというすばらしいプログラムです。それを上手に活用し、仕事で英語が使えるようになるまで、実力を高めていってください」という激励のメッセージが送られ、幕を閉じました。

受賞者の声



チームでの参加で
モチベーションが向上

TOEIC® L&R Test部門
チーム戦1位（チーム名：HV）

株式会社ポーラ 人事部
井田 千春氏

英語学習の
明確な目標ができ、
新たな学習法をスタート

TOEIC® Speaking Test部門
個人戦1位

みずほ情報総研株式会社
マーケティングデジタルテクノロジー部
三本 貴裕氏



当社は、海外事業の強化を中期経営計画で掲げており、その実現に向け様々な取り組みを行っています。English Cup 2020に挑戦することが「社内においてその意識付けになればいい」、また「自ら学ぶ意識が職場に浸透すればいい」という思いから、今回参加を決めました。

実際に参加してみると、どの団体の方も英語学習に対する意欲が本当に高く、改めて自ら学習する環境をつくる必要性があると痛感しました。また、「チームで参加する」「楽しんで目標を持つ」ことによって、英語学習に対するモチベーションが上がることを、肌で感じられたのは大きな経験でした。チーム内では、「どんな勉強法が良かった？」「この動画を見てみたら」といった声掛けはしたものの、一緒に勉強することはできませんでした。次回開催があれば、もっとメンバーを増やし、一緒に勉強する機会をつくって、一体感を高めていきたいと考えています。

現在当社では、TOEIC® L&R IPテスト（オンライン）を導入していますが、今回の参加を機に、今後は「使える英語」を目指し、TOEIC® S&W IPテスト（オンライン）の導入も検討しています。これからも人事部として、英語力を常にブラッシュアップできる環境を構築していきたいと考えています。

私が担当している業務では、海外企業とのやり取りがあるため、メールやミーティングなどで英語を使う機会がたくさんあります。特にミーティングでは相手が話していることを理解し、自分が伝えたいことを的確に表現しなければいけないため、英語で話す力を鍛えたいと思い、今回参加することにしました。

English Cup 2020に挑戦するに当たり、TOEIC® Speaking Testでより高いスコアの取得を目標にしていたため、モチベーションを高めながら、継続して英語学習ができたことは、とても有意義だと感じました。今回は個人戦でしたが、自分の会社全体のスコアを、他の参加団体より少しでも押し上げたいという思いが後押ししたのかもしれない。

また、スコアアップという明確な目標が定まったことで、オンライン英会話を新たにスタートするなど、普段よりさらに踏み込んだ学習を行うことができたのも大きな収穫だったと思います。

まだまだ勉強不足ですが、英語を使ったミーティングなどで、より的確に意思疎通が図れるようになり、仕事の幅を広げていくことができるよう、今後も英語学習を継続していきたいと考えています。



英語がもたらした私のターニングポイント 第10回

©BRIDGEs

海外でプレーしていきたい 英語が広げた自分の世界

ゴールキーパーとして、10年にわたり欧州のサッカーチームで活躍する、
フランス1部リーグ・RCストラスブールの川島永嗣選手。

欧州に移籍するまで、海外生活の経験はなかったものの、今では英語だけでなく、
フランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、オランダ語と
日本語を含めると7カ国語も話することができるそうです。

●サッカー選手 川島永嗣さん

Profile

かわしま・えいじ
1983年埼玉県生まれ。2001年に大宮アルディージャ入団。川崎フロンターレなどを経て、10年にベルギー1部リーグのリールセSKに海外移籍。現在はフランス1部リーグ、RCストラスブールに所属。日本代表としては10年FIFAワールドカップ(以下、W杯)南アフリカ大会、14年W杯ブラジル大会、18年W杯ロシア大会などに出場。スポーツを通じて日本人の語学面をサポートするグローバルアスリートプロジェクトの発起人兼アンバサダーを務める。著書に『本当に「英語を話したい」キミへ』(世界文化社)などがある。

● 孤独感を覚え、涙。

帰国後、英語を猛勉強し1つの武器に

今でこそ7カ国語を話せますが、昔から語学が得意だったわけではありません。中学3年生で初めて欧州遠征をしたときは、何も話せなかった。18歳でイタリアに1カ月間のサッカー留学をしたときも、コーチやチームメイトの言うことが全く分からず、余りの孤独感に、親との国際電話で泣いてしまったぐらいです。チームメイトにからかわれているように感じても、言い返せなかったことも悔しかったですね。

海外でプレーしていきたいという夢もあったので、一念発起。帰国後に英語を勉強し始めました。最初は様々な教材を買

って独学で勉強しましたが、なかなか話せるようになりません。そこで、実際に話す機会を増やすようにしました。

英会話教室に通うだけでなく、オフのときには、必ず英語圏の国を旅行。ホテルはあえて現地に電話をかけて予約しました。電話だと身振り手振りが通じないので、良い訓練になりました。

分からないなりに、とにかく話してみる。それを心掛けた勉強を行う中、21歳でオーストラリアを1週間旅行したとき、これまでとは明らかに異なる変化を感じました。現地の人の話が聞き取れるようになり、こちらも言葉を返せるようになったのです。うれしさとともに、「話してみることに」の重要性を痛感し

ましたね。

僕は、海外移籍が夢だったので、英語だけでなく、イタリア語やスペイン語、ポルトガル語なども勉強し始めました。混乱するのでは、と思うかもしれませんが、これらはラテン語から派生しているので、似た言葉が多いのです。だから「英語ではこうだけど、イタリア語ではこうなのか」という発見があり、記憶に残りやすい。飽きずに勉強できる効果もありました。

● 海外移籍2年目には キャプテンを任せられるまでに

そして2010年、念願の海外移籍を果たしました。ベルギーリーグ1部のリールセSKというチームです。

日本で語学を勉強したとはいえ、最初からスムーズにコミュニケーションできたわけではありません。最も難しかったのは、試合中の声掛けです。ゴールキーパーは、相手から攻められているときに、味方選手と相手選手の動きを瞬時に把握し、「あの選手をケアして！」などと味方に指示することが重要ですが、それを英語で伝えるのが非常に難しかったです。初めは言葉がとっさに出てこなくて、失点につながったこともありました。また、移籍後半年は、ロッカールームで同僚たちが何を話しているのかいまいち分からず、なかなか話の輪の中に入れてませんでした。

しかし、練習のときから瞬時に英語で指示するトレーニングをすることで、自然とできるようになったのです。ロッカールームでの会話も、話に出てくる知らない言葉を調べたり、直接尋ねたりしているうちに、理解できるようになりました。リールセは10カ国の選手が集まる多国籍軍だったので、英語が主な共通言語ですが、各選手の母語であるスペイン語やイタリア語でも話し掛けると喜ばれ、より心の距離が縮まりました。

こうして、入団2年目にはキャプテンを任せられるまでになりました。同僚たちとも深い話ができるようになり、一生付き合える親友もできました。英語を話せるようになったことで、ここまで世界が大きく広がるのか、と実感しました。

リールセに2年間在籍した後、スコットランドやフランスなど、計4つのチームに所属しました。欧州のサッカーリーグは、語学ができるからといって試合に出られるほど甘い世界ではありませんが、語学が1つの武器になったのは確かです。

● 相手の国の背景を意識し ニュアンスをくみ取る

世界各国から集まる選手たちと話すときに心掛けているのは、相手の国の背景や国民性を頭に入れて話すことです。誰でも大なり小なり、その出身国の特徴があります。例えば南アフリカの選手は優しく、打たれ弱い人が多い。問題点をはっきり指摘してしまうと、すごく落ち込むので、やんわりと伝えています。

相手が何を言いたいのか、ニュアンスをくみ取ることも意識しています。英語が母語でない選手は、正確な英語を話してい



グローバルアスリートプロジェクトの一環である、英語サッカースクール特別授業の様子
©GlobalAthleteProject

るとは限りません。間違った言葉に引っ張られると、本当にその人が言いたいことを見誤ることがあります。

後は「本来の自分自身でいること」でしょうか。本来、僕は強く自己主張をしない方ですが、海外の選手は自己主張が激しい人ばかりです。初めは「黙っていたら自分のせいにされる」とミスをしたときでも強く自己主張していました。しかし最近では、主張すべきことはするけれども、自分がミスをしたときは「ごめん、今は俺のミスだ」と認めるようにしています。その方が自分の性分に合っているからです。それで何か問題が生じたことはありません。言葉は変わっても、自分自身の性格まで変える必要はない。海外で生活をする上でのポイントだと思っています。

2011年には、もっと多くの日本人が言葉の壁をこえて世界で活躍してほしいという思いから、「一般社団法人グローバルアスリートプロジェクト」を発起人の1人として立ち上げました。世界に挑戦するアスリートに対する語学留学・オンライン英会話などのサポートや、子どもがサッカーやキッズチアを通して英語を学ぶことができるスクールの運営をしています。アスリートや子どもたちの未来の可能性を切り開きたいですね。

英語は自分の世界を無限大に広げてくれるツールです。新型コロナウイルス感染症の影響によって自宅で過ごす時間が増えましたが、英語を学ぶ時間がまとまって取れるようになったともいえます。この時間を有効活用すれば、コロナ禍が過ぎ去った後、新たな世界に羽ばたけるのではないのでしょうか。



2020年の特別授業はオンラインで行われ、川島選手は子どもたちに「夢と語学の勉強」について語った ©GlobalAthleteProject

日本にしながら留学体験ができる ホテル滞在型のプランを提供

留学したくてもできない人たちの 英語学習を後押しする

コロナ禍で国・地域をこえた往来が制限される中、大学などではオンラインを活用した、新しいスタイルの留学が模索されています。このような状況下で、ホテルをチェーン展開する株式会社スーパーホテルは、オンライン英語トレーニング事業を手掛けるスパトレ株式会社と連携し、「ホテル滞在型国内英語留学プラン」の提供を2020年10月から開始しました。

東京都や大阪府にある同ホテルの店舗では、外国人客の比率が3～5割程度あったため、新型コロナウイルス感染症の拡大により、客室の稼働率が大きく低下。新たな顧客開拓に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、ニーズの洗い出しを行いました。「英語学習をしているスタッフなどから、留学したくてもできない方たちをはじめ、集中して英語を学びたい、学び直しをしたいといったニーズがあるのではないかという意見が出ました」と話すのは、同社経営品質本部部長の星山英子氏です。同じ頃、スパトレ株式会社からホテルで行う国内英語留学プランの提案が持ち掛けられたこともあり、スーパーホテルPremier東京駅八重洲中央口で、金曜日の夕方から3泊4日で、オンライン授業を個室で受講できるサービスの提供を開始しました。



プランの企画に携わった株式会社スーパーホテル経営品質本部部長の星山英子氏(左)、同社Premier東京駅八重洲中央口支配人の菅野真彦氏(右)

チェックインから始まる 英語漬けの生活

同プランでは、チェックインから英語漬けの生活が始まります。ホテルスタッフは、外国人客への対応で培った語学力を生かし、チェックインから館内のインフォメーションまで全て英語で対応。チェックインした受講者は、広いデスクがあり集中して勉強できる環境が整ったデラックスルームに入室すると、初日はまず実力診断テストを受け、その結果を基に日本人スタッフからレベルに合った学習法の提案を受けます。その後配布された教材で予習し、翌日からの授業に備えます。2日目は朝



フロントでの対応も全て英語で行われる

8時から、外国人講師によるオンライン授業。30分の授業と1時間の予習復習というセットを8セット行います。3日目も授業と予習復習を6セット行った後、実力診断テストを再度受験。最後に日本人スタッフから改めて今後の学習法の提案があり、翌日チェックアウトとなります。

受講者たちからは、「集中的に学習できた」「ホテルに入った瞬間から海外にいるような気分を味わえて良かった」といった声が上がっているそうです。一方、対応したスタッフからも英語をもっと学びたいという意見が出ており、「フロントミーティングでも、今後強化していくべき課題として語学が挙がるなど、スタッフの意識も向上しました」とPremier東京駅八重洲中央口支配人の菅野真彦氏は語ります。

21年1月からは大阪開催の要望に応え、スーパーホテルPremier大阪・本町でもプランを開始。実施回数を増やし、3泊4日に加えて、2泊3日のプランも設けるなど、より受講しやすいサービスを構築しています。今後の課題は、受講者からも要望が出ている、「受講者同士の交流をいかに行っていか」と星山氏。その解決に向け、最初に希望者がラウンジに集まり、目標を共有する時間を設けるといった試みがスタートしているそうです。

国内にしながら英語学習に集中できるという新たなスタイルを提供する同社の挑戦は、英語学習者の更なるモチベーションアップを図ることへと広がりを見せています。



受講者が宿泊するデラックスルーム

■第12回 IIBC エッセイコンテスト表彰式を開催

未来に対し夢と希望にあふれる高校生を応援



表彰式に出席された7名の皆さん(一部オンライン参加)

IIBCは、高校生を対象にした「IIBCエッセイコンテスト」を、毎年開催しています。2020年に12回目を迎えた同コンテストでは、これまでと同様に「私を変えた身近な異文化体験」をテーマにした英語のエッセイを募集。本選・奨励賞合わせて2,000作品をこえるご応募をいただきました。本選への応募248作品の中から9名の受賞者を決定し、2020年11月7日(土)、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)にて表彰式を開催。新型コロナウイルス感染症対策として、会場への出席人数に制限を設け、オンラインでの中継も実施しました。

今回、本選の最優秀賞に輝いたのは、日中青年会議での経験を通して得た価値観の変化について書いた、渋谷教育学園渋谷高等学校2年の貴田悠斗さんの作品です。貴田さんは、「メッセージ性を持たせ、素直な思いを書きました」と英語のエッセイを書く上で大事だと感じたことを語ってくれました。

また今回より、これまでの受賞者(アルムナイ)の方たちが審査する、アルムナイ特別賞を新設しています。

これからもIIBCは、コンテストを通じて、夢と希望にあふれる高校生を応援してまいります。

Close up

2回目のチャレンジで 優良賞を受賞

鎌倉女学院高等学校2年
浅尾 奈佑さん



前回のコンテストにもチャレンジしたのですが、自分が人に何を伝えていきたいのかが明確にすることができず、残念ながら応募を断念しました。今回はその反省を踏まえ、オリジナリティを追求し、自分自身が経験したことを、自信を持ち伝えていこうと決めました。そこで、過去の受賞作品を読み参考にしたり、これまでの経験で得たことなどについて、先生や友人と意見交換したりしながら、時間をかけ、自分でブレインストーミングを行いました。その結果、シンガポール出身の母親がつけてくれた弁当を通して得た、自分の気付きをテーマにしてエッセイを書くことができたのです。

今回の受賞によって、「自分が行ったことは間違っていない。確実に成長もしている」という実感を持って、それが自信へとつながり、何事も前向きに取り組めるようになりました。これからも積極的に色々なことに参加して、そこから得た経験を基に、しっかりした自分の意見が持てるような人間になっていきたいと思っています。

受賞者

最優秀賞

貴田 悠斗さん
渋谷教育学園渋谷高等学校2年
タイトル: Tackling Issues with No Answer

優秀賞

有吉 萌さん
渋谷教育学園蔦張高等学校2年
タイトル: The Family Next Door

優良賞

浅尾 奈佑さん
鎌倉女学院高等学校2年
タイトル: The Secret Ingredient of My Bento Box

※受賞時の学年を記載

特別賞

村瀬 結子さん
学習院女子高等科3年
タイトル: Culture through the looking glass

土反 ケイト アンジーさん
三重県立松阪商業高等学校2年
タイトル: You Need Help!

細谷 優衣さん
山形県立山形北高等学校2年
タイトル: Your "Normal", Someone's Dream

柏木 杏さん
私立山脇学園高等学校2年
タイトル: Knowing What I Need

門松 心美さん
不二聖心女子学院高等学校3年
タイトル: How Do You Change?

アルムナイ特別賞

手塚 まりこさん
大妻中野中学校・高等学校2年
タイトル: Kindness Not So Kind

日米協会会長賞

貴田 悠斗さん
渋谷教育学園渋谷高等学校2年
※最優秀賞とダブル受賞

土反 ケイト アンジーさん
三重県立松阪商業高等学校2年
※特別賞とダブル受賞

柏木 杏さん
私立山脇学園高等学校2年
※特別賞とダブル受賞

奨励賞

38校、1,797名

※本選: 1校2名(2作品)までの応募が可能。受賞者9名を決定
※奨励賞: 1校20名(20作品)以上の応募校に贈られる賞
※アルムナイ特別賞: 過去の受賞者より1名(1作品)に贈られる賞
※日米協会会長賞: 一般社団法人日米協会より本選応募作品の中から、国際理解や国際交流の観点で優れた3名(3作品)に贈られる賞

公開テストスケジュール

公開テストスケジュールは変更されることがございますので、最新の情報は公式サイトでご確認ください。

TOEIC® Listening & Reading Test



回数	試験日	申込期間 ^{**1}	結果発送予定日
第268回	2021年 5月23日(日) 午前	2021年 3月25日(木) ~ 2021年 3月29日(月)	2021年 6月22日(火)
第269回	2021年 5月23日(日) 午後	2021年 4月 1日(木) ~ 2021年 4月 5日(月)	2021年 6月22日(火)
第270回	2021年 6月20日(日) 午前	2021年 4月22日(木) ~ 2021年 4月26日(月)	2021年 7月20日(火)
第271回	2021年 6月20日(日) 午後	2021年 5月 6日(木) ~ 2021年 5月10日(月)	2021年 7月20日(火)
第272回	2021年 7月11日(日) 午前	2021年 5月20日(木) ~ 2021年 5月24日(月)	2021年 8月10日(火)
第273回	2021年 7月11日(日) 午後	2021年 5月27日(木) ~ 2021年 5月31日(月)	2021年 8月10日(火)

TOEIC® Speaking & Writing Tests

TOEIC® Speaking Test



試験日	申込期間 ^{**1}	結果発送予定日
2021年 5月16日(日)	2021年 3月26日(金) ~ 2021年 4月28日(水)	2021年 6月15日(火)
2021年 6月13日(日)	2021年 4月28日(水) ~ 2021年 5月28日(金)	2021年 7月13日(火)
2021年 7月11日(日)	2021年 5月28日(金) ~ 2021年 6月25日(金)	2021年 8月10日(火)

TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests



回数	試験日	申込期間 ^{**1}	結果発送予定日
第79回	2021年 6月20日(日)	2021年 2月22日(月) ~ 2021年 5月20日(木)	2021年 7月23日(金)

TOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests



試験日	申込期間 ^{**1}	結果発送予定日
2021年 6月27日(日)	2021年 3月12日(金) ~ 2021年 6月11日(金)	2021年 7月30日(金)

*上記は個人でお申し込みいただく際の申込期間です。団体一括試験申込期間 (TOEIC® Speaking Testを除く) は公式サイトでご確認ください。
(※1) 申込開始および締切時間については公式サイトでご確認ください。

本誌は公式サイトでもご覧いただけます。

https://www.iibc-global.org/iibc/activity/iibc_newsletter.html



IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>

【お問い合わせ】

東京 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.03-5521-5901
名古屋事業所 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル TEL.052-220-0282
大阪事業所 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル TEL.06-6258-0222

【報道関係お問い合わせ】

総務・広報チーム 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.03-3581-4761